



鳥取県で2世紀の後半頃大がかりな戦いがあったことをうかがわせる遺跡がみつかったの。

「倭国大乱」とは

『魏志倭人伝』には、2世紀の中頃(弥生時代後期後半)、倭国は男の王が治めていたが、国内の争いが絶えない状況がしばらく続いたと書かれています。これを俗に「倭国大乱」と言い、倭国内が内戦状態にあったとの見方が有力です。



使いの者たちは倭国に属する国々の動きを探りに向かった。



銅鏃の刺さった人骨

成人男性の骨盤の一部。銅鏃が貫通していました。銅鏃が人の殺傷に用いられたことを示す初めての例です。



青谷上寺池遺跡(鳥取県)。遺跡からたくさんのヒトの骨が出土しました。骨には110点にもおよぶ金属製の武器で傷つけられた痕を残すものがありました。

平和だった伊都国も少しずつ不安定な情勢になっていったのかも。



国々の動きを探りに行った伊都国の使者たちのなかには戦いに巻き込まれて命を落とした人がいたかもしれないね。

わたしたちの住む系島の昔の暮らしを知りたい

倭国大乱

第9回 ● 倭国乱れる

画・上角智子



平原遺跡 (国指定史跡)



国宝 内行花文鏡 (直径46.5cm)

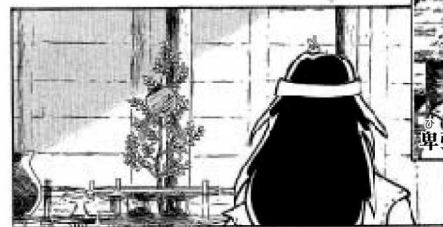
2世紀末(弥生時代終末)の伊都国の女王墓。出土した直径46.5cmの国内最大の銅鏡を含む40面の銅鏡やガラスのピアスなどの豪華な装飾品は、伊都国王が持っていた強大な権力の証と言われています。出土品は全て国宝に指定されています。

2世紀後半の伊都国は女王が治めていたのよ。現在の平原遺跡がそのお墓と言われているの。



ある日のこと、突然女王は、伊都国内の有力者たちを集めた。倭国の中で国の安定をおびやかす不穏な動きがある事を耳にしたのだ。





女王卑弥呼誕生

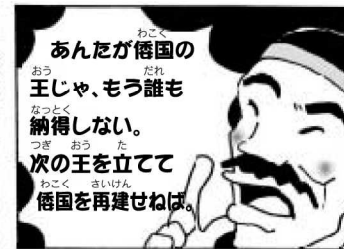
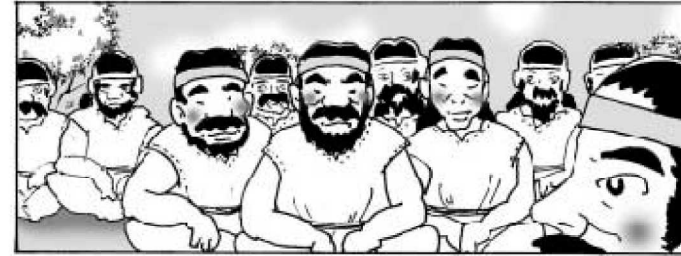
『魏志倭人伝』には、「倭国大乱」を鎮めるため諸国の王
たちが話し合い、新たに卑弥呼を倭国王にしたと書かれ
ています。しかし、卑弥呼は「邪馬台国」の所在地とも
にまだまだ多くの謎に包まれた人物です。



やまたいこく
つがもの
ひみこ
やかたむ
使いの者たちは、卑弥呼の館へと向かった。



わこく おう くにくに だいいよう あつ けつそく もと
倭国王は国々の代表を集め、結束を求めたが…



何がいよい方法はないものか？

